

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

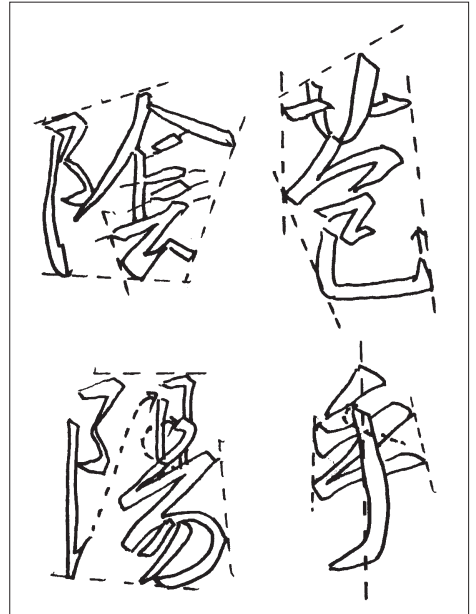
- 1、字句「苞乎陰陽」
- 2、形式「半紙タテ使用。右に「苞乎」、左に「陰陽」と臨書し、左余白に「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。
- 3、概観「行書は楷書のように一点一画が孤立していないから点画をつづけることにより点画が省略される場合がある。」
 - ・点画が省略されたり、つづけられたりする結果、楷書の筆順と異なる場合がある。
 - ・同じ行書でも、楷書に近いものから草書に近いものまでであるが、省略法によっていろいろな字形ができる。
 - ・楷書は形が整然としているが、行書は速度感・リズム感のある運筆から、形にも動きが生まれる。
- 4、各字のポイント

苞 草冠、四画目の縦画が一画目よりもかなり高い位置から入筆。三画目の横画は二画目より下げている。字幅は狭いが六画目を左に出し末筆は右に出しバランスをとる。

乎 この字は縦画の動きに注目。四画目と五画目の交差した点を中心と見れば、縦画は左から中心へ、中心から左へと移動してバランスを取る。

陰 偏の縦画は左へ開く。傍の一画目は思いきり長く、横画の不平行・不等分割に注意。最後の「ム」は鋭く小さい。

陽 偏の縦画は「陰」と違いまっすぐに。傍は、三画目の横画は右下がりにし、四画目で右に大きく上げる。



集字聖教序・王羲之

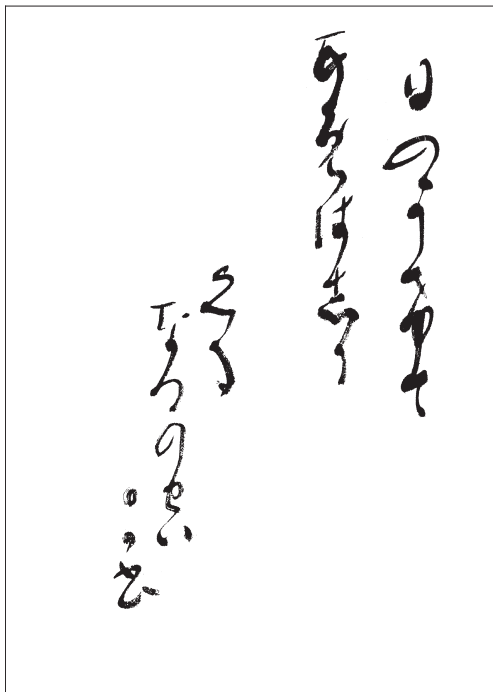
昇試第三部 (漢字・かな) 予告 (八月二十二日締切)



平岡華雪先生書 世路風波有り。(彭炳)

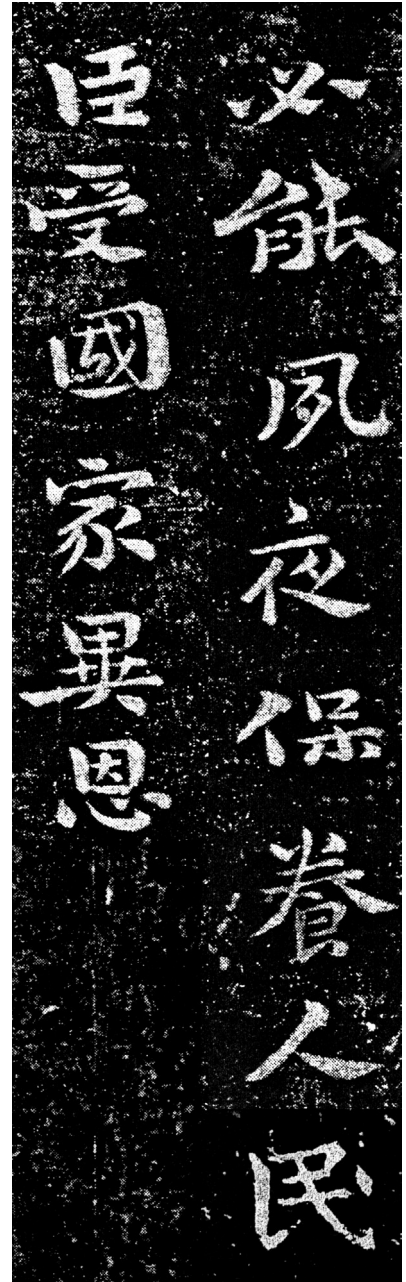
訳……この世を渡るには波荒れ風吹き容易なことではない。

平岡華雪先生書 日の受けて雨走り来る夏の空(あふひ)



研究部課題 (七月二十二日締切)

(課題)



(出典) 『薦季直表』 鍾繇

必能夙夜保養人民。 臣受國家異恩。

一字書 (七月二十二日締切)

課題

祭

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

▽注意

- (1) 半切タテに臨書する。
- (2) 二行書き・字詰め自由。
- (3) 落款は「復堂臨」と書き入れること。雅印は無用。(出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可)
- ▽出品要項
 - (1) 資格⇨推薦、準推薦、推薦合格者 (漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)
 - (2) 締切⇨七月二十二日必着
 - (3) 発表⇨書延九月号誌上
 - (4) 出品料⇨九二〇円同封

(5) 出品方法

ア、出品は一人一点とする。

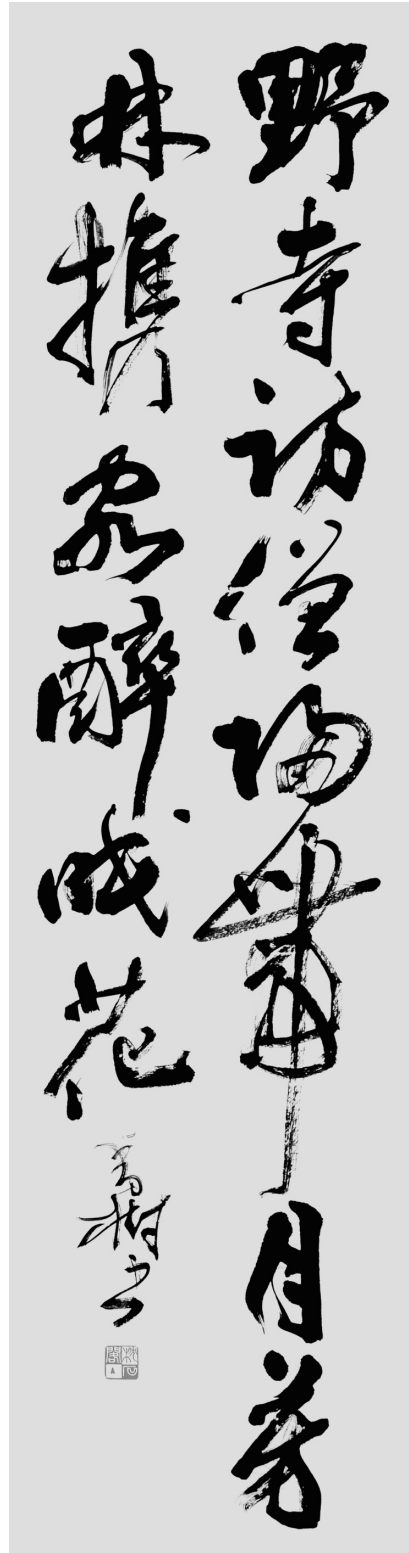
イ、私製の出品票(縦10cm×横5cm)を作品の左下に貼付する。

※春季昇級試験で初めて推薦・準推薦・推薦格に合格した方も是非取り組んでください。

A

高橋香樹会長書

野寺訪僧歸帶月 芳林携客醉眠花 (鮑溶)
野寺僧を訪い帰るに月を帯び、芳林客を携え酔うて花に眠る。



B

鈴木静村先生書

十四字の中に縦画を伸ばせる文字があると作品に変化をつけることが出来ます。今回の課題は伸ばせる文字が三字あり、位置を考慮して「帯」を伸ばすことにしました。「帯」は、長さが二字分以上ある為、他の文字は少し小さめに。草書六字、行書は八字とし、墨継ぎは「月」と「客」です。



野 “里”上部大が安定感。寺 二画目突き出しも可。帰 書体多い、字典参考に。帯 墨継ぎ。“月”に連綿。林携 渴筆部分、上滑りなく。“渴”大切に。客 墨継ぎ。醉眠花 行草の交互は試み、各自新手法を期待。

訳：いなかの寺の僧を訪問しては日の暮れるまで遊んで月を帯びて帰り、春の山に友と遊んでは花下に酔って眠る。

予告 昇試第一部漢字(八月二十二日締切)

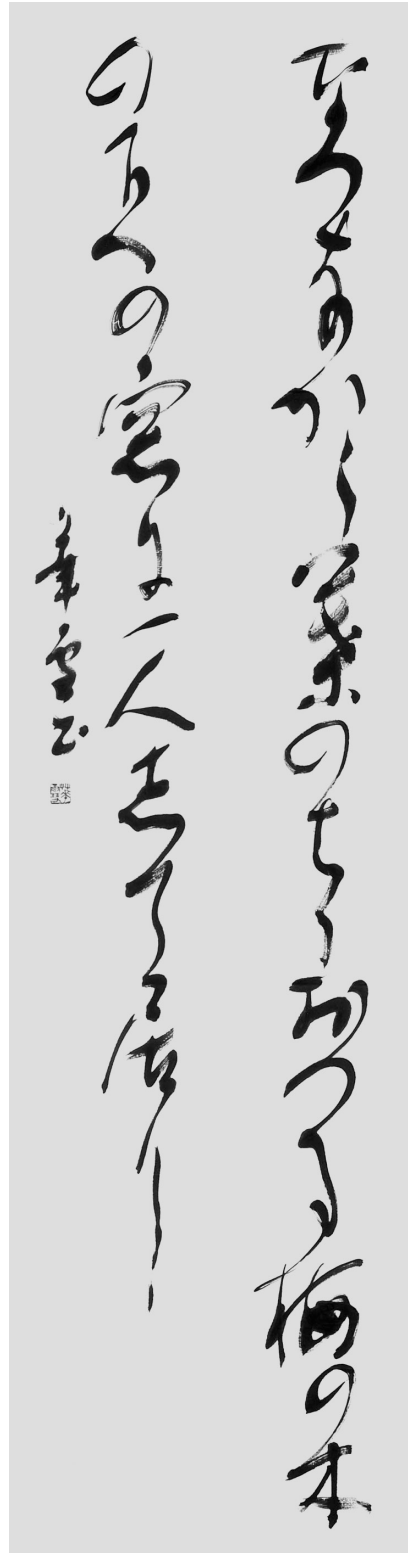
風生虎嘯層崖底 月上猿啼古木巔 (刁約)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

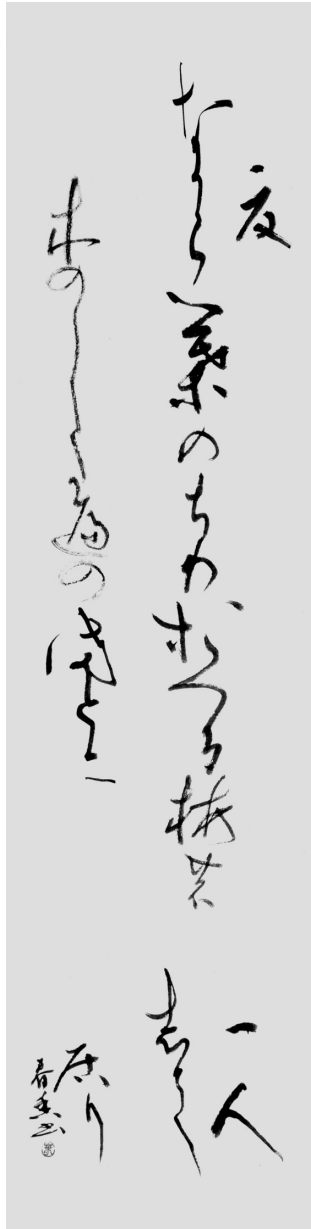
夏ながら葉の散り落つる梅の木の下への窓に一人して居り(島木赤彦)
なつ奈から葉のちりおつる梅の木の下への窓尔一人志して居り



B

石原春香先生書

夏な可から葉のち利於つる梅農木の下多遍の満と二人志して居り



学び方

いかにも写生主義らしい歌である。窓辺にすわって梅の木の葉の散りおちるのを見ている様子がみえる。夏の落葉の雰囲気を出してみたく「夏」を一文字に書き出し、「木のした遍の」を渴筆で表現し散りゆく梅の葉を表わしてみた。

予告 昇試第一部かな(八月二十二日締切)

夏はたゞこよひばかりと思ひねの夢路にすゞし秋の初かぜ(金槐和歌集)

島木赤彦 (一八七六一
一九二六)
歌人・本名久保田俊彦
長野県諏訪生まれ。
雑誌「比牟呂」を創刊。伊藤左千夫に師事。「アララギ」を編集。写生主義に立脚し、峻厳孤高の鍛練道を実践。歌集「水魚」「太虚集」著「歌道小見」「万葉集の鑑賞及び其批評」など。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

小暮 菘華 先生 書

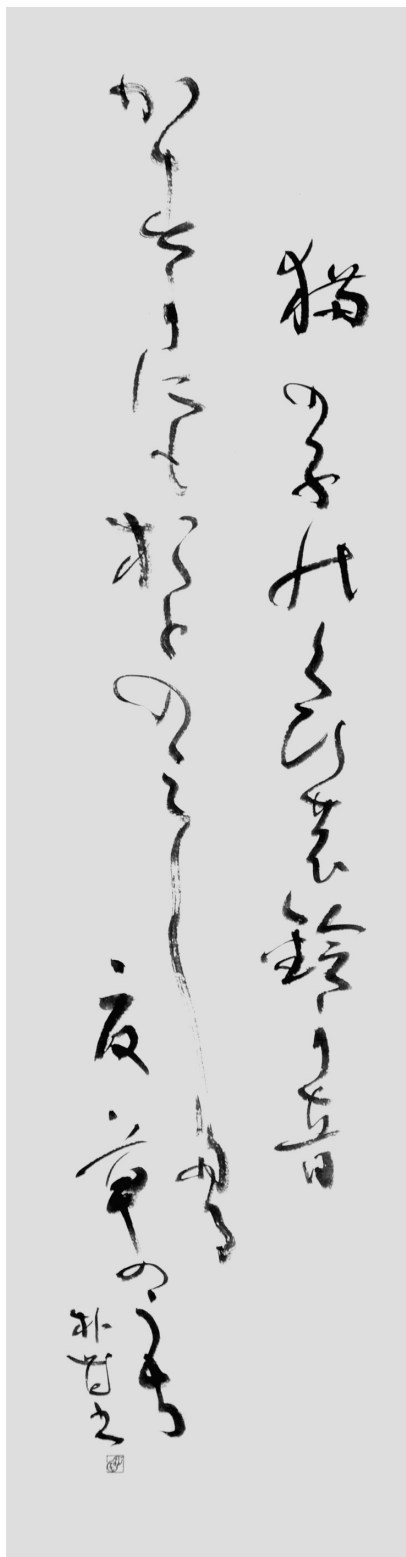
樹因初植偏宜雨。竹自新移却畏風。(柯聿)
樹は初めて植うるに因り偏に雨に宜しく、竹は新に移してより却つて風を畏る。



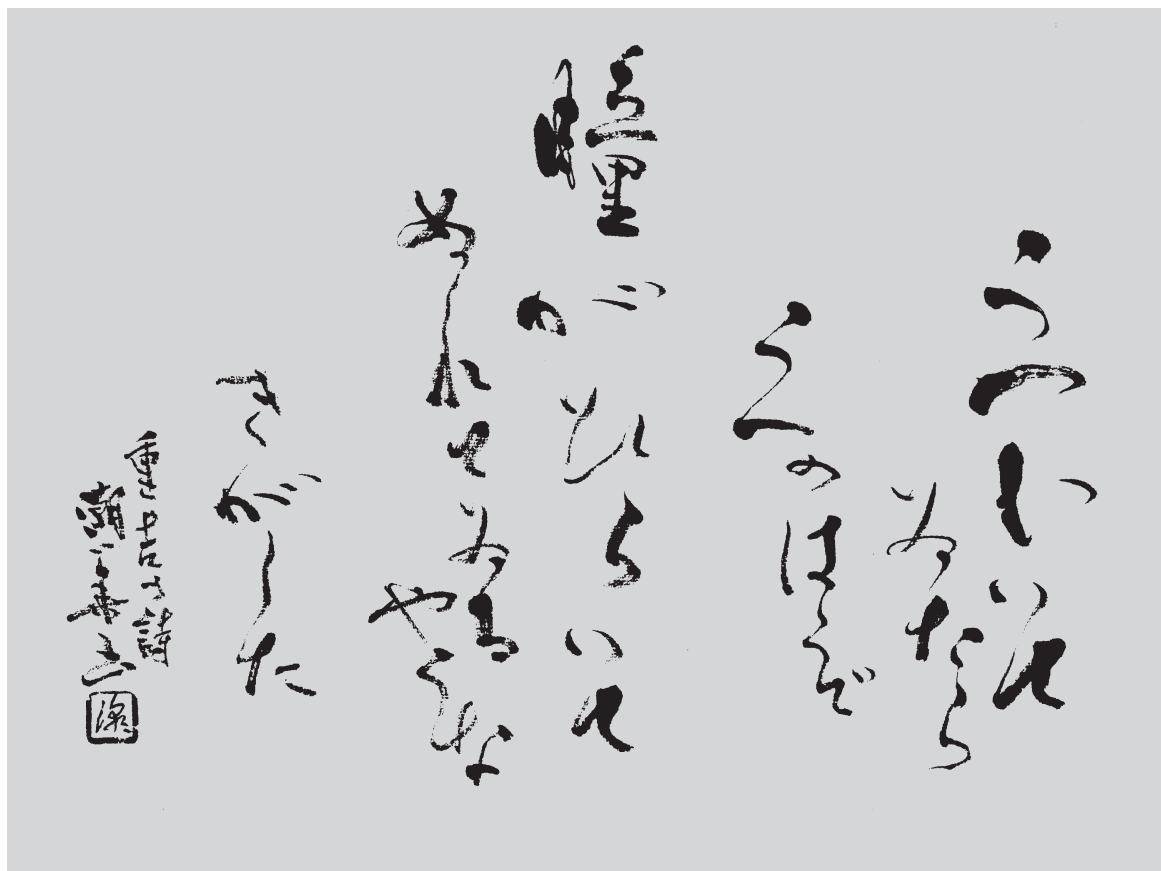
訳：樹木を初めて植えたので雨が降ればよい、竹は移植してまもないので風の吹くのが面白くない。

向山 朴花 先生 書

猫の子の首の鈴が音かすかにも音のみしたる夏草のうち (大隈言道)
猫の子能久ひ農鈴可音か春可にも於との三し多る夏草のうち



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）



水貝 潮華 先生 書

うっむいてゐたら
うへのはうで 瞳がひらいてぬれてゐる
やうなきがした 八木重吉「瞳」

今回は半紙を横に使って、作品づくりをしてみました。「うっむいて…」の書き出しは自然に入り、「うへの…」は少し小さめにし、中央の「瞳が…」でゆったりと字間を取りながら、大きめの文字で、「寄せ」を使い、八山場Vとしました。そして、「きが…」で静かに収めます。

今回は羊毛の長鋒筆で、半紙の裏面を使ったので、渴筆が多くなったのではないかと思います。皆さんもマンネリの打破を試みて下さい。

八木重吉(一八九八〜一九二七)

東京府下南多摩郡生まれ。英語教諭。二十九歳で没した詩人。内村鑑三の著作にふれて熱烈なキリスト教信者となる。詩はおおむね短い。心の一瞬のゆらぎの中にひらめく永遠的なるものを追い続けて、短い生涯に大量の詩を残した。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

- ①漢か ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

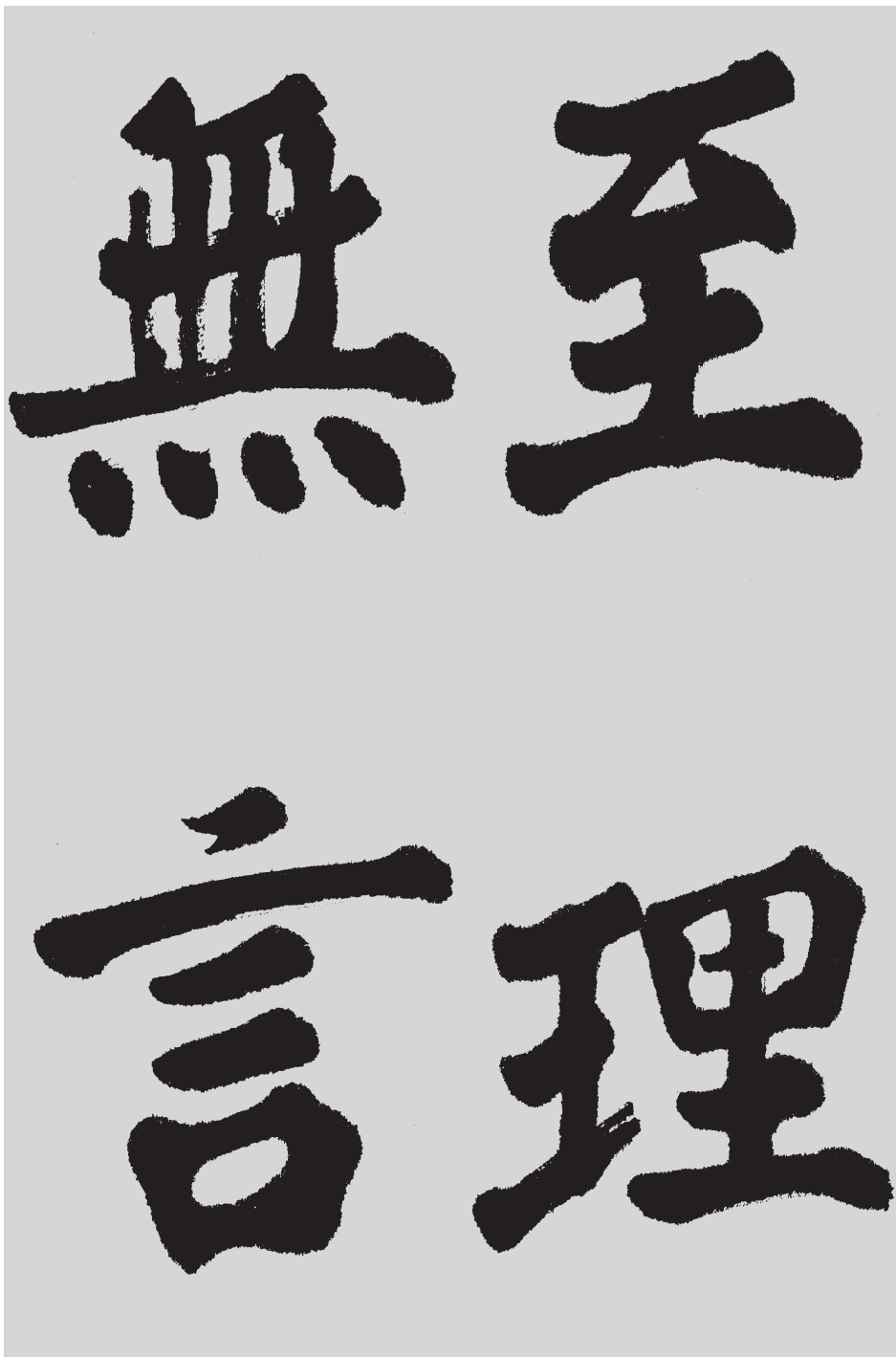
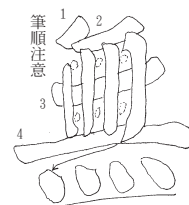
平岡華雪先生書

至理無言

訳：理の絶対境に至っては是非の言をいれる余地なし。

〈留意点〉

○四文字は配字がむずかしい。特に天地は凡を揃える。
○落款は文字の大きさ、左辺の余白のとり方で各作に相違、各人の効果的表出を期待！

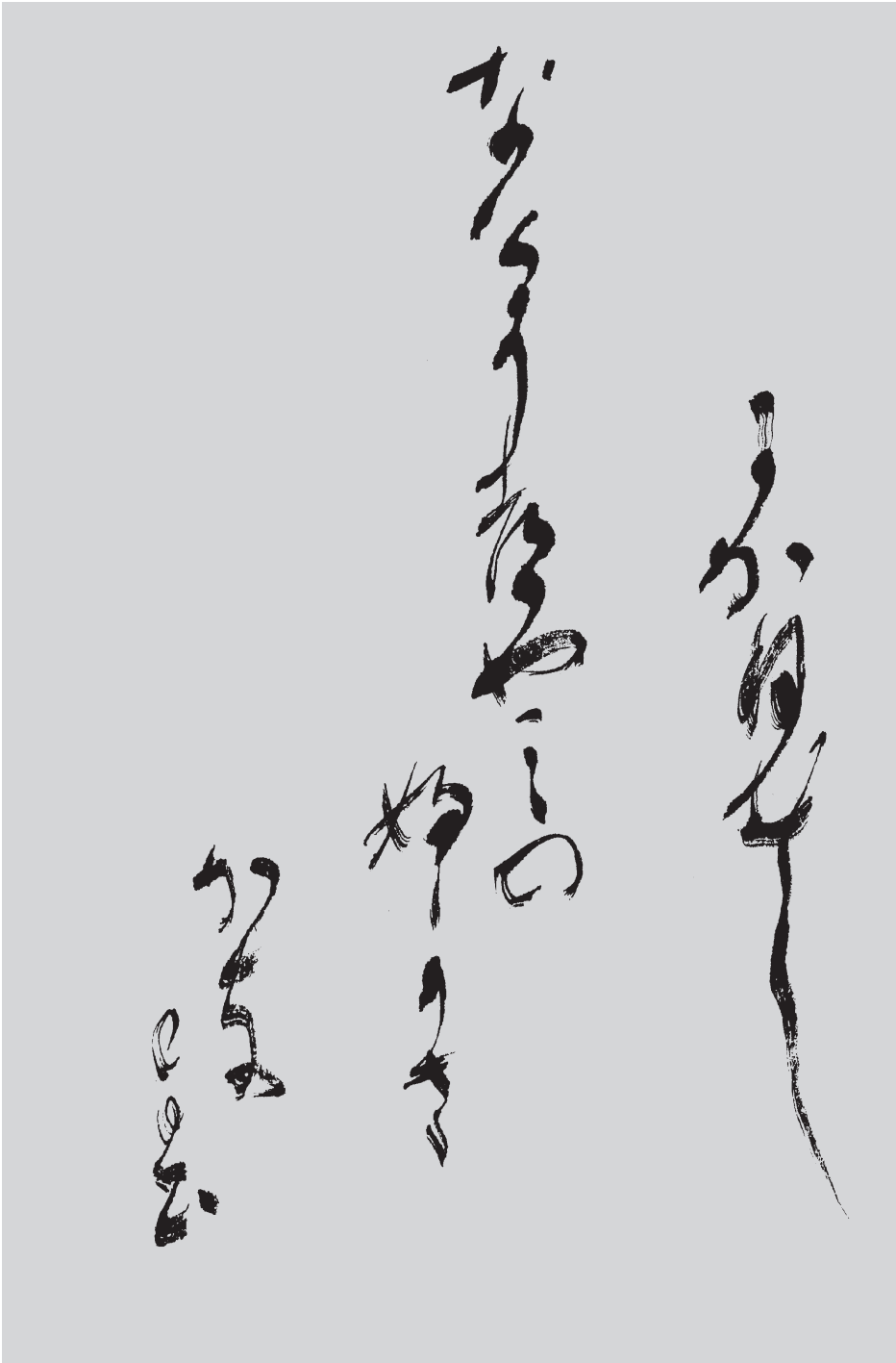


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

こがねむしなげうつ闇の深さかな (虚子)
 こかねむしな^け介^つ都^みや三^ふの婦^か可^かさ^なか奈



〈かな文字のみへの表現〉
 全部「かな」という珍しい作。変体がなの使用がアクセントとなって流れに効果性。一行目、「む」の遠く離れた点から「し」への連綿は華雪先生が常々使われる手法。二行目が主調部分「う都や」を強調的に。「奈」も先生の「味」。下五を切り離して落款を添えた纏めも極めて自然体。

予告 昇試第二部かな (八月二十二日締切)

日くるれば軒にとびかふかはほりの扇の風もすゞしかりけり (新後撰和歌集)

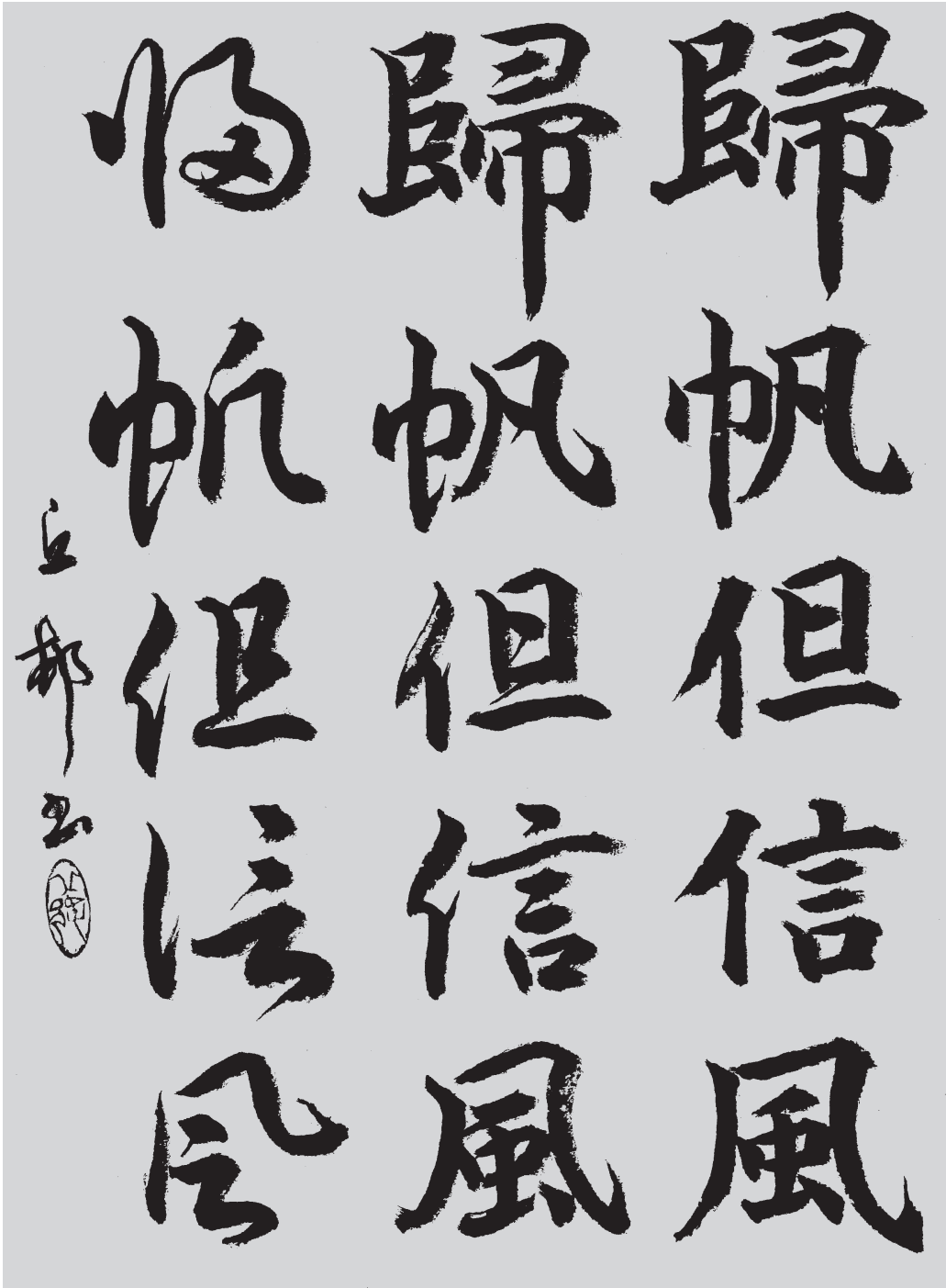
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

戸張丘邨先生書

歸帆但信風（王維）
歸帆は但だ風に信すのみ

訳：帰り行く船は、ただ風の吹くにまかせるだけ。



予告 昇試第二部漢字（八月二十二日締切）

魚眼射波紅（王維）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

訳：きよいかげ。すずしいかげ。



多胡春葉先生書

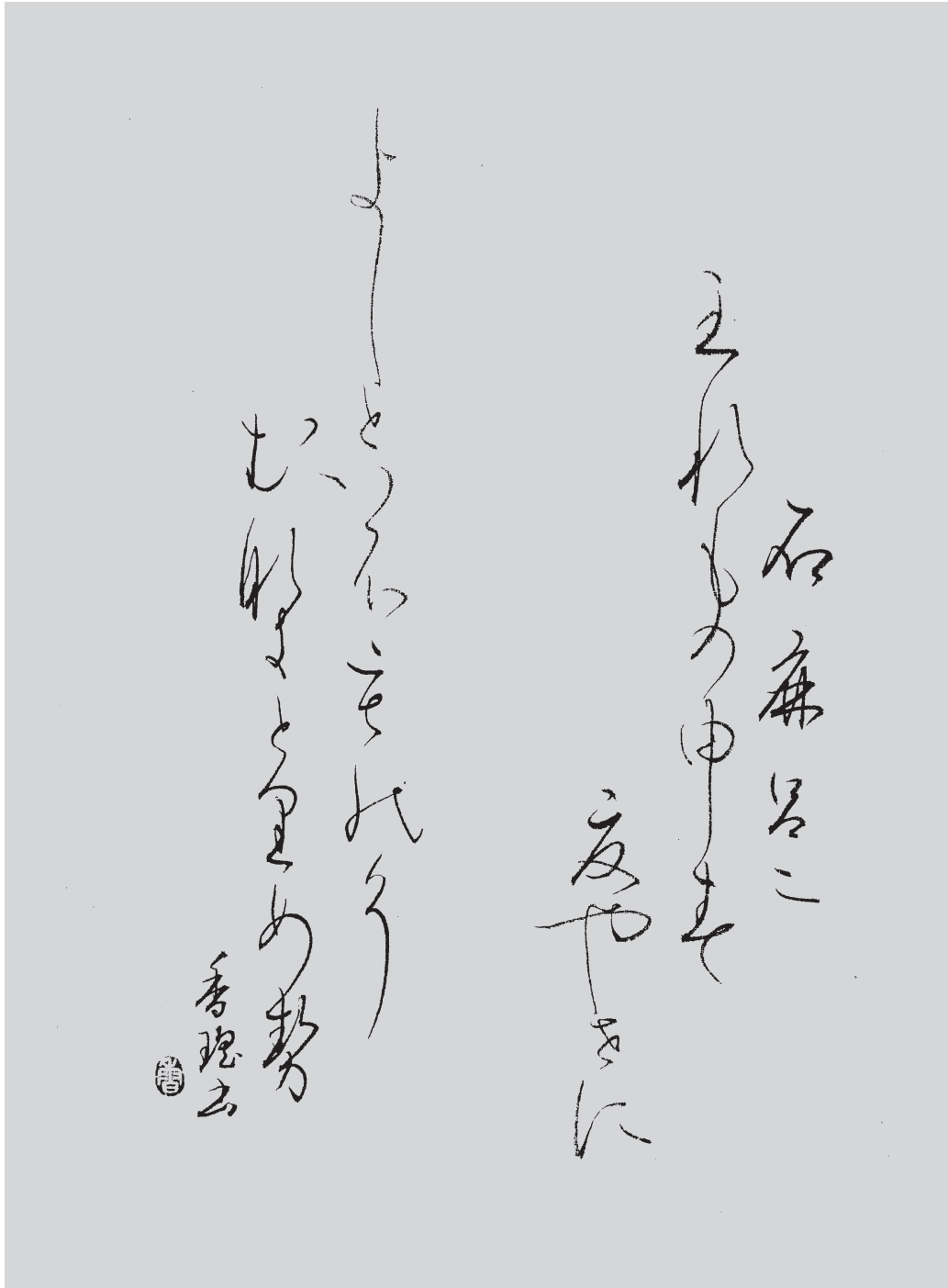
清陰（蘇東坡）
清陰。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

内藤香瑶先生書

石麻呂に吾れ物申す夏やせによしといふものぞ鰻取り食せ（万葉集 大伴家持）
石麻呂二王れもの申春夏や世によしといふ毛能曾む那支と里め勢



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

稲畑 穂先生書

石原 春香先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

老若男女が目探しに没頭する光景は、
平和で穏やかな江戸の世を象徴する
シーンであったのだろう。

海は、空との境を鮮やかに浮き
上がらせ、群青の水平線の上に白い積
乱雲が肩をそびやかすように上空へ
盛り上がっていた。

課題 1 (初段階以上)

海は、空との境を鮮やかに浮き上
がらせ、群青の水平線の上に白い積
乱雲が肩をそびやかすように上空へ
盛り上がっていた。

「水の手帳」伊集院静

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題 2 (初段階以下)

老若男女が目探しに没頭する光景は、
平和で穏やかな江戸の世を象徴する
シーンであったのだろう。

「江戸名所図屏風 大江戸劇場の

幕が開く」内藤正人